

特集 ● 総合リハビリテーション医療ケアセンター10周年記念～桜まつり～ 挙行
● 医療法人 生愛会グループ 生愛祭2024 開催

生愛TIMES



撮影者：理事長 本間達也

2024年度(令和6年度)

第33号

春夏号



SEIAIKAI
HEALTHCARE
CORPORATION



SEIAI WELFARE
PROJECT
GROUP

目次

巻頭言 本間達也理事長	／1
医療・介護連携契約記念講演会	／2
総合リハ10周年記念 桜まつり	／3～4
生愛祭2024	／5～6
生愛会グループ作品展 傾聴ボランティア	／7
施設内研修会 回想療法	／8
能登災害派遣・全老健実地研修 カナリアズ演奏会	／9
東北老健大会in盛岡 接遇研修	／10
生愛会グループ敬老会 花壇整備	／11～12
生愛福祉事業団記念祭	／13
防衛大臣・東北方面総監感謝状 ご意見箱	／14



医療法人 **生愛会**
社会福祉法人 **生愛福祉事業団**

巻頭言 「物価高騰と職員の処遇改善」

医療法人 生愛会グループ 理事長
 総院長 医学博士 本間達也



常日頃より、生愛会グループの運営につきまして、多大なるご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

世界情勢と物価高騰

世界情勢が不安定な中で、残念ながら、世界各地で戦争や紛争が起こっております。2023年にロシア軍がウクライナに侵攻したロシア、ウクライナの戦争も今だ終結を見ず、中東ではハマスとイスラエルが衝突を繰り返してお

り、世界的情勢も落ち着かない状況にあります。日本ではその煽りも受け、エネルギー（ガソリン、灯油等）や原材料価格の高騰に繋がっております。2021年には世界的大流行したコロナウイルスも物流に大きな影響を与え、さらに円安が進んだことにより輸入コストの増加が加速した要因と言えるでしょう。当然輸入コストの増加は食材料費に大きな影響を与え、皆様のご家庭でも少なからず影響を受けていると思います。

そのような中、医療・介護

・福祉に於いても物価高騰の影響が重くのしかかって来ております。一般社団法人全国老人保健施設協会が行った「緊急！介護現場における物価高騰・賃上げ等の状況調査」では、介護施設系の電気・ガス・燃料費・給食用材料費・給食委託費が今年、令和6年と令和2年を比較すると150%以上の経費増加となり、100床の施設では月に約160万円もの費用負担が増加しております。また、施設を運営するにあたっては、設備の老朽化に対応する修繕費も大きな施設の負担となっております。

臨時の介護報酬改定を求める

今年、4月と6月に診療報酬と介護報酬改定が行われました。大きなところでは協力医療機関との密な連携を評価する「協力医療機関連携加算」や介護ICTの導入を支援する「生産性向上推進体制加算」などが新しく設けられました。しかしながら、物価高騰の負担を補うものとはなり得ませ

んでした。この物価高騰に対しては臨時的に医療・介護の報酬を国に支援して頂くほかありません。先日、医療・介護の現場の声を直接聞きたいと当法人へ来所されました、福島県議会議員の半沢雄助先生にも実情を強く訴え、「加算ではなく報酬自体の引き上げによって補って頂きたい」とお話をいたしました。質の高いサービスを提供するためにも追加での報酬改定を願うばかりです。



(左) 施設の実情を訴える本間理事長
 (右) 福島県議会議員 半沢雄助先生

立行政法人労働政策研究・研修機構調査) その中で、もっとも多く見られるのが「暴言」であるが、長時間の説明を求め、「時間の拘束」は目に見えず、精神的に職員の心を蝕んでいく。何度も説明を求められると職員も負担になり、心が壊れてしまう。現場の職員が長縮するようになれば、ケアにも影響が出る。そのようなことのないように法人グループ全体で毅然とした対応をしていく所存ですので、是非とも皆様のご理解を頂きますようお願い致します。

ほんま・たつや/医学博士
 主な役職等

- (医)生愛会グループ 理事長 総院長
- (社)福生愛福祉事業団 理事長
- 福島県老人保健施設協会 理事長
- 福島県医師会倫理審査委員
- 金沢大学医学部臨床教授
- 福島県立医科大学医学部臨床教授
- 奥羽大学歯学部客員教授
- 日本老年医学会 老健管理認定医
- 日本健康促進医学会 理事
- 日本認知症ケア学会 代議員
- 全国老人保健施設協会 前副会長

カスハラから職員を守る

医療・介護の現場では過去3年間で約4割が迷惑行為、4人に1人がカスターハラメントに遭っている。(独





第1部閉会の挨拶をする
医療法人 生愛会 常務理事
川村博司院長先生



折戸地区青年会による太鼓・笛の盆踊り



乾杯の挨拶をする 福島市議会議員
生愛会健康推進アドバイザー 石山波恵先生



続いて二つ目の余興では、折戸地区青年会の皆様による太鼓・笛の演奏に合わせて盆踊りを踊りました。大きな輪になって、法被を着た職員と利用者、地域の方々が笑顔で踊る光景は、生愛祭ならではのものです。

今年も力強い太鼓と笛の音に、祭の夜の雰囲気がいよいよ層高まりました。余興の終了とともに、医療法人 生愛会 常務理事 川村博司院長先生より第1部の閉会の挨拶があり、会場を屋内に移し懇親会が催されました。



第2部懇親会にて
食事を楽しみながら歓談される参加者

第2部では、日頃より生愛会グループにお力添えをいただいている来賓の方々、関連業者の方々、地域の方々と食事を取りながら懇談の場が設けられ、和気あいあいとした雰囲気でお睦を深める機会となりました。

そして、生愛祭の最後を締めくくるのは、打ち上げ花火です。今年も関連業者の方々より多くのご協賛を賜り、豪華な花火が大笹生の夜空に打ちあがり、参加者からは大きな歓声があがり大変盛り上がりました。



(右) 第2部閉会の挨拶をする 元市議会議員
生愛福祉事業団 評議員 木村六朗先生



閉会として、社会福祉法人 生愛福祉事業団 評議員の木村六朗先生よりご挨拶をいただきました。

今年も盛況のうちに生愛祭が閉幕となり、利用者の皆様が楽しまれていた様子を見ることができ、思い出深い一日となりました。来年もさらに皆様に喜んでいただけるお祭りとなるよう、職員一同励んで参りたいと思います。

生愛祭2024 盛大に開催

2024（令和6）年8月9日（金）、医療法人 生愛会 生活期総合リハビリテーション医療ケアセンターにて、生愛祭2024が盛大に開催されました。利用者・家族、来賓、地域の方々等、約100名の参加者が夏の夜の楽しいひと時を過ごしました。コロナ禍が明けて2年目の開催となった今回は、熱中症対策として余興を中心とした第1部、懇親会の第2部に分かれた構成での開催となり、当日は、雨天の予報も出ておりましたが、参加者の熱気によってその心配もなく予定通りのプログラムを進行することができました。



第1部開会の挨拶をする
生愛会中央医療クリニック 角田裕先生



来賓の挨拶をする 県医師会前会長
生愛福祉事業団 評議員 佐藤武寿先生

今年の生愛祭では、医療法人 生愛会中央医療クリニック 角田裕先生の開会の挨拶からスタートし、本間理事長の挨拶に続き、福島県医師会前会長、社会福祉法人 生愛福祉事業団 評議員 佐藤武寿先生より来賓挨拶を頂戴し、地域に密着したお祭りの開催の意義を噛みしめながら、一つ目の余興の披露となりました。



代表挨拶をする 医療法人 生愛会グループ
理事長 本間達也先生

恒例となりました、生愛会グループ職員で結成されたバンド「カナリアンズ」のステージ。ゲストヴォーカルに福島市議会議員、医療法人 生愛会健康推進アドバイザーの石山波恵先生をお招きした豪華なメンバーで計4曲が披露され、特に「東京ブリギウギ」「ブルーシヤトウ」では、楽しい振付に合わせた華麗な歌声と演奏に会場が一体となって盛り上がりました。



【メンバー】 本間達也理事長（ヴォーカル）
塚原久美子（ピアノ）
伊藤健博（ベース）
廣瀬美由紀（ダンサー）
ダン・ホン・ゴック（ダンサー）

【特別出演】
福島市議会議員・生愛会健康推進アドバイザー
石山波恵先生（ヴォーカル）
生愛会地域ボランティア推進委員
近野 淳様（ドラム）

特集 生愛会総合リハビリテーション

～桜まつり～

日時：令和6年4月19日（金）

場所：生愛会中央医療クリニック デイ・ケア
ヘルスケアスクールにて



(中央) 素敵なダンスと歌唱を披露する福島市議会議員
生愛会健康推進アドバイザー 石山波恵先生



ダンサー：八島真奈美歯科衛生士長



ダンサー：特定技能実習生
ダン・フォン・ゴック



石山波恵先生と本間理事長先生



入居者、職員、一緒に楽しみました！

余興では、本間理事長先生をはじめとし、生愛会グループ職員で結成されたバンド「カナリアアンズ」による演奏がありました。どの曲も利用者が青春時代を過ごした時の曲ばかりで、口ずさむ利用者、音楽に合わせて体を動かす利用者が多く見受けられました。そして、「ブル―シャトー」の曲では、毎月、福島市議会議員の石山波恵先生による音楽体操で利用者の方々が一生懸命練習したダンスを、曲に合わせて踊り、会場が一体となり盛り上がりました。

入居者・家族、地域の方々、生愛会に関わる全ての方々の支えがあつて10年目を迎えることができました。これから更に地域に根ざした施設として、皆様に愛される施設として頑張つてまいりますので、今後とも宜しくお願ひ致します。



音楽に合わせて、体を動かす場面も！

医療ケアセンター 開設10周年記念 盛大に挙行

平成26年に東北初の地域複合型総合施設 医療法人 生愛会、生活期総合リハビリテーション 医療ケアセンターが開設され、今年で10年目を迎えました。毎年、利用者や家族、地域の方々を招いて桜まつりを開催していましたが、2021年に新型コロナウイルスが流行以降、桜まつりを開催することができませんでした。しかし、昨年5月に2類から5類になり、徐々にイベントや行事等の開催、そして、開設10周年という記念の年、利用者の強い希望もあって、令和6年4月19日（金）「10周年記念〜桜まつり〜」を盛大に開催する運びとなりました。



閉会の挨拶をする
生愛会中央医療クリニック
角田裕先生



乾杯の挨拶をする
医療法人 生愛会
常務理事 川村博司院長先生



祝辞を述べる県医師会前会長
生愛福祉事業団 評議員
佐藤武寿先生



開会の挨拶をする
医療法人 生愛会グループ
理事長 本間達也先生



10周年のお祝いの花を頂きました



開設10周年記念〜これまでの歩み〜を放映



ヘルスケアスクール利用者から
10周年のお祝いに頂きました

福島民報

ケアセンターの
開設10周年祝う
福島の生愛会

福島市の医療法人 生愛会グループの生活期総合リハビリテーション医療ケアセンターの開設10周年を記念したテレビ番組は19日、同施設で開かれた。生愛会の本間達也理事長・総院長があいさつした。記念の動画を上映し、これまでの歩みや介護事業の取り組みを紹介した。本間理事長を祝った。

記事・総院長や職員らで構成するバンド「カナリアンズ」が「恋の季節」や「雨の御堂筋」などを演奏。会食もしながら出席者が10周年を祝った。

開設10周年を祝い、披露されたバンド演奏

新聞に掲載されました

医療機関と介護保険施設の連携契約記念講演会

大原医療センター
院長 石橋敏幸先生
「人生、努力と
感謝への挑戦」

2024年の介護報酬改定
で「協力医療機関連携加算」
が新設。医療機関と施設が実
行性のある連携体制を構築し
情報共有しながら、入所者の
緊急時、迅速に医療や介護が
提供できることを目指すもの
です。この度、新たに一般財
団法人大原記念財団 大原医
療センターと医療法人 生愛
会グループが連携契約を締結
しました。第1回目は、令和6
年8月26日(月) 大原医療セ
ンター院長 石橋敏幸先生を
お招きし「人生に無駄なこと
など一切ない！人生、それは
努力と感謝への挑戦！」をテ
ーマに講演して頂きました。



大原医療センターで開かれた「人生に無駄なことなど一切ない！人生、それは努力と感謝への挑戦！」をテーマにした講演会の様子。

石橋先生は、地域との医療連携や、30年後を見据えた若手医師の人材育成、救急蘇生教育等を情熱をもって取り組まれておられ、医療業界も厳しい不況の中、どんな環境でも変革できる組織作りを目指していることを話されておりました。また、福島市臨床研修NOWプロジェクト代表として若手の人材育成を行い、医療の復興にご尽力されていること、福島JMATのチーフリーダーとして、能登半島地震支援のため現地で活動されたことを映像資料で分かりやすく話して下さいました。石橋先生が、様々な活動を通して医療人として人間としての原点を見出し、常に感謝をもって行動されていることを知り、その大切さを学びました。変化やピンチは幸せへと大きく変わるチャンスであり、人生に無駄なことなど一切ないと理解しました。励みとなる興味深い講演でした。



大原医療センター常務理事 石橋敏幸先生による講演の様子。

医療法人 生愛会グループ
理事長 本間達也先生
「介護施設裁判敗訴
からの逆転」

医療機関と介護保険施設の
連携契約記念講演会、第2回
目は、令和6年9月24日(火)
大原医療センターで開催され
ました。当法人グループの本
間達也理事長が大原医療セン
ターに招かれ「介護施設裁判
敗訴からの逆転〜認知症症例
からの教訓〜」をテーマに講
演をしました。



大原医療センターで開かれた「介護施設裁判敗訴からの逆転」をテーマにした講演会の様子。

本間理事長は、介護事故が
紛争・訴訟化するケースが増
えている原因として「医療で
は臨床医学の水準は明確だが
介護水準はブレが大きく、そ
れが課題である。利用者の尊
厳や自立支援を意識すると介
護事故が不可避免的に発生す
ることや、介護施設では人材不
足や設備など物理的な問題も
ある。『介護の人手不足の加
速』や『萎縮した介護』に繋
がる恐れがある。」と話され
ました。その対策として、今
こそ介護の損害賠償のあり方
や考え方を問い直す時期であ
るとし、本間理事長が東京地
方裁判所立川支部で裁判官に
介護現場の現状について講演
し、法曹界に大きな影響を与
えたことにより、介護に対す
る見方や訴訟の内容も変化し
てきたと話がありました。ま
た、介護事故の中で多い高齢
者の転倒は、事故ではなく疾
病であり、どんなにリハビリ
をしても転倒や誤嚥はゼロに
できないこと、認知症の方の
介護に苦慮している事例も挙
げ、利用者の家族等にも認識
してもらおうことが大事であ
ると話がありました。現在、介
護施設裁判において、勝訴す
るケースが増えています。真
摯に取り組んでいる医療介護
等スタッフは、萎縮せずに働
ける環境作りや、世間の意識
改革を目指していくと締め括
りました。



大原医療センターで開かれた第2回記念講演会の様子。

医療法人 生愛会 常務理事
院長 川村博司先生
施設内研修会
「人生の最終段階」

当法人グループでは、令和
6年5月29日(水)「人生の最
終段階に向き合う」をテーマ
に研修会を開催し、川村博司
院長が講演しました。



大原医療センター施設内研修会での講演の様子。

介護施設で(当施設でも)
利用者の病状の重症度が高ま
り、死期が迫っても病院へ搬
送することなくそのまま自然
経過を見守り看取る利用者が
増えていきます。「人生の最終
段階に向き合う」ために、医
療介護スタッフとしての心得
や利用者・家族をどう支援す
るのかについて学びました。
人生の最終段階に備えて、
個人の意思決定を尊重しなが
らチーム医療で支える必要
性と、人生会議等で何度も話
合うことの大事さを学びまし
た。最善で幸せな最期を迎え
てもらうために何をすべきか
職員皆で再認識できました。

2024年度第8回施設内研修「インフルエンザ・ノロウイルスについて」

10月29日（火）、第8回施設内研修を開催致しました。今回は「インフルエンザとノロウイルスについて」というテーマで本間守男先生よりご講義いただき、約55名の職員が参加、感染症に関して学びを深めました。



講師を務めていただいた
元神戸大学医学部長

生愛会中央医療クリニック医師 本間守男先生

講義をご担当いただいた本間守男先生には、感染症の流行が懸念されるこの時期に毎年ご講義いただいております。インフルエンザと細菌の違いからインフルエンザウイルスの構造、流行史、ノロウイルス感染症の症状まで基本的な知識をご教授いただき、改めて感染予防対策のポイントを教えてくださいました。特に、ノロ食中毒の原因となる二枚貝・かきを食する際の選び方については、普段の食生活でも取り

入れたい知識であり、とても参考となりました。ここ数年は、新型コロナウイルス感染症対策により、職員全体で感染予防に対する意識は高まり、取り組みも定着してきておりますが、インフルエンザ・ノロウイルスも同様に、職員である私たちが感染源とならないように、日々の感染予防対策や健康管理が重要であると感じます。今回の講義を通じて感染症に対する基礎知識をしっかりと身に付けておくこと日常から継続して感染予防対策に取り組むことは、高齢者施設で働く私たちにとって不可欠な姿勢であると再確認することができました。引き続き、これからの流行への備えをしっかりと行なって参ります。



多くの職員が熱心に講義を受講する様子

本間達也理事長先生による 「福島市の100年」 〜思い出は元気のみなもと〜 シリーズ 回想療法

10月21日（月）の本体通

所りハビリテーションを始めに生愛会グループ全ての事業所で本間達也理事長先生による回想療法が開始されました。利用者の皆さんが楽しみにされているため、通所リハビリテーションが営業している全ての曜日で開催を企画。全行程で6日間の12講演で開催されております。



本体通所りハで講演される
本間達也理事長先生

回想療法では福島市の100年の歴史がスライドに映し出されると、懐かしい写真に利用者の方々は目を輝かせて昔を思い出しておりました。

回想療法後も各テーブルでは思い出に花が咲き、にぎやかに談笑される利用者の方々があちらこちらで見られておりました。



戦後間もない縮荷神社付近での闇市



介護予防カフェ「カナリア」での講演



路面電車（伊達駅前）



賑わうスズラン通り

第16回生愛会グループ作品展開催・傾聴ボランティア受け入れ再開

第16回生愛会グループ作品展開催

毎年恒例となりました、生愛会グループ作品展が今年も令和6年10月7日〜31日の期間、東邦銀行本店様のロビー展として開催となりました。今年で16回目を数える生愛会グループ作品展は、医療法人生愛会グループの各事業所を利用しての入所者・利用者が生活リハビリの一環として制作した手芸・工作作品を広く地域の方々にご覧いただき介護施設の現状と取り組みを知っていただくとともに、入所者・利用者の生きがいづくりを目的に、地域貢献として毎年秋に開催しております。

今年の作品展のテーマは、「発創力」。テーマの力強い書字はヘルスケアスクール（デイケア）利用者その後藤一雄様をお願いをし、例年以上にアイデア満載の作品約50点が展示された会場はにぎやかな装いとなりました。

10月21日には本間謙一専務理事、齋藤事務局長に会場にお越しいただきました。会場視察に同席いただいた東邦銀行の常務 田辺様からは、昨年と比べてもより素晴らしい

作品展となっておりますというお褒めの言葉を頂戴しました。来年もたくさんの方々にご覧いただけるよう、職員一丸となって利用者の生きがいづくりに取り組みで参りたいと思います。

会場の様子



福島民報に作品展の様子が掲載されました



和やかに懇談する本間謙一専務理事（左前）齋藤事務局長（左奥）、東邦銀行 田辺常務様（右奥）

生愛会グループ作品展表彰式

令和6年11月12日（火）、第16回生愛会グループ作品展表彰式が執り行われました。

理事長賞受賞作品5点のお披露目とともに、各事業所より代表の利用者へ表彰状が授与されました。また今年も、受賞の記念品として、3Dプリンターで作成したスリークロス（生愛会グループのシンボルマーク）が入った特製メダルを準備しており合わせてお渡し致しました。受賞者の皆さんは、メダルを手にとり、晴れやかな笑顔で受賞を喜びました。

特製メダル



受賞記念に皆さんで写真撮影

第16回生愛会グループ作品展受賞作品



「ふるさと」
加藤サイさん
谷川元子さん



「お月見団子」
鈴木けい子さん
八木澤秀子さん



「紫陽花」
笠原和子さん



「毛筆風壁画」
通所リハビリテーション 生愛会ナーシングケアセンター
団体作品



5月こいのぼり
生愛会ナーシングケアセンター
団体作品

傾聴ボランティアさくら



宇津木様

神保様

氏家様

令和6年7月より、傾聴ボランティアの受け入れを再開致しました。コロナ禍によりやむを得ず受け入れ休止となっておりますがこの度5年ぶりに活動を再開、変わらぬメンバーでお越しいただけることに、職員一同大変感謝しております。

以前同様、月1回第2月曜日に生愛会グループの各事業所にてお話を傾聴いただいております。利用者皆様からも「お話を聴いてもらえることを楽しみにしている」との声が寄せられております。今後とも宜しくお願ひ致します。

傾聴ボランティア再開

能登災害ボランティア派遣

生働会グループを代表して 能登へ災害ボランティアの派遣

2024年1月1日午後4時10分、新年度が始まったやきに福島市から約500km離れた石川県能登半島を中心に最大震度7の大地震が発生しました。ニュースや新聞でただ見守ることしかできなかったところ、全国老人保健施設協会から要請があり、本間達也理事長のご指示で、災害派遣ボランティアに福島県老人保健施設協会、医療法人生働会グループの代表として本間謙一専務理事、木村優哉相談員の2名が4月24日〜4月27日の期間に石川県金沢市内にある「いしかわ総合スポーツセンター」に派遣。



全国各地から毎日、日替わりでボランティア支援者が訪れました。日常生活（食事介助・排泄介助・歩行介助入浴介助等）のサポートを行いました。被災し、避難している方々とお話をさせて頂くと、皆明るく、元気があり、先を見据えています。支援に行った我々が元気づけられるほどでありました。福島県も約13年前に東日本大震災で被災し、全国各地から支援を行って頂いたように我々生働会グループも微力ながら今後とも支援を行っていきたく所存です。



全老健実地研修 「在宅復帰・在宅支援コース」受け入れ報告

令和6年9月3日（火）9時〜17時30分、公益社団法人全国老人保健施設協会主催の実地研修「在宅復帰・在宅支援コース」を受け入れました。専門分野について特徴ある取り組みをしている施設に行き、各分野の専門実技を修得する目的です。毎年実施していますが、今年度は5名が参加しました。（福島県と宮城県の介護老人保健施設計2施設より参加）当老健施設のベッド調整会議や各種ミーティングを見学していただき、当法人グループがどのよう在宅支援に取りくんでき



るか、実際に見学や講義を通して学んで頂く機会となりました。実地研修の内容は、オリエンテーションで当法人・当施設の概要の説明、施設見学、管理医師である川村博司院長からの講義、ベッド調整会議やカンファレンスの見学入所判定会議や嚥下機能的内視鏡検査の見学、各職種との意見交換会、修了証書授与式を実施しました。

参加者からの感想・意見「講義や見学など分かりやすく説明して頂き、地域貢献活動も含め、とぎれることが無く継続して利用者・家族・地域住民の方を支えていることをとても強く感じました。」
「実際の見学や意見交換会の時間が長く、とても有意義な研修でした。グループ全体で共有している情報が多く、それが在宅復帰に繋がっているのだと感じました。」
「法人内での情報共有がしっかりとなされており、スムーズな調整が図れていると感じた。」
「雰囲気の良い施設と感じました。」
「もっと参加者を増やしても良いと思います。」
以上のご意見を参考にしていきたいと思えます。

生働会グループ 「カナリアンズ演奏会」

2024年（令和6年）7月13日（水）通所リハビリテーションにて理事長先生率いるカナリアンズのサマーコンサート演奏会を行いました。歌に聞き入り、歌に合わせながら体を動かして、皆さんの素敵な笑顔で楽しい時間を過ごされました。



東北地区介護老人保健施設大会 in盛岡 (老健施設の学術大会)

職員7名が 学会参加・発表

2024年9月13日に岩手県盛岡市にある盛岡市民文化ホールと、いわて県民情報交流センターの二会場にて、第20回東北地区介護老人保健施設岩手大会が開催されました。法人グループより7名の職員が参加しました。大会テーマは「どうする？おらほの老健」人口減少社会をみすえて」と題しており、東北地域での共通した課題である少子高齢社会、人口減少が一層進んでいる地域で「施設と在宅復帰」を考える大会となりました。講演では厚生労働省老健局老人保健課長による「老人保健行政の取り組みについて」や全国老人保健施設協会の理事の山野雅弘先生による「老健施設の現状と課題」についての内容があり、老健施設の今後の在り方について、処遇改善・医療介護連携・現状と課題について考える機会になりました。



当法人グループからは、二瓶玉枝理学療法士が「骨折を契機にADLが著しく低下した高齢認知症者に対する家族とともに取り組むリハビリテーションの成果」で演題発表をしました。身体機能の予後の悪化予防には、急性期から在宅リハまでの一貫した治療・関わりが必要です。発表では転倒による骨折でADL・IADLが低下した高齢認知症者に対し、多職種で連携した取り組みを報告しました。参加者からの質疑応答もあり私たちでは気付かない視点や考え方、意見を頂いたり内容の濃いものとなりました。



講演やセミナー、演題発表のほかに社会福祉機器や介護用品の展示もあり、約30社の企業が参加されていました。利用者の方々により良いケアやリハビリテーションのかかわりができるように、商品の改善・改良がされていました。また、介助者側の負担を軽減できるような機能性や取り組みがされ、企業の方と直接話したり、実際に機器に触って実践したりと、体験することができ、今後の医療・福祉・ケアで関わるうえでの参考や情報収集をすることができました。



演題発表をする理学療法士 二瓶玉枝

福島県保険医協会主催 明日から誰でも好印象になれる 3つのポイント

開催日時：令和6年5月21日(火)
会場：コラッセふくしま
講師：マナーコンサルタント
川島ゆう子氏

医療機関スタッフ向け接遇研修に法人本部事務の鈴木美紀、須田佳菜、橋内ななせの3人で参加して参りました。

マナーの 5原則

- ①身だしなみ
- ②あいさつ
- ③表情
- ④態度
- ⑤言葉づかい＋α言葉がけ

特に言葉の伝え方について、相手の心情を思いやり「感じの良い伝え方」に変換して、意図を伝えることを学びました。その一部をご紹介します。

★クッション言葉を使用する。何かを頼んだり、質問するときには、「恐れ入りますが・・」 「お手数おかけいたしますが・・」 「失礼ですが・・」などを用いる。

★相手の意向に添えないとき相手の意向に添えないときに

は肯定形に変えて伝える。「それはできません」ではなく、「申し訳ございませんが、それは致しかねます」 「それは分かりません」を申し訳ございませんが、私には分かりかねます。調べてまいりますので、〇〇分ほどお待ちいただけますでしょうか？」 (提案・代替案)

日頃から、相手の心情を察する気づきの感性を磨きながら、相手に伝える際には心形に、形に心を込めて伝えることを心掛けて参りたいと思います。そして、良い接遇は自分自身の心も豊かにすること、チームワークを持つて今後も接遇に取り組んで参ります。



法人本部事務：須田 講師：川島ゆう子先生
法人本部事務：鈴木(美) 橋内

生愛福祉事業団で敬老会開催

附属介護老人保健施設 生愛会ナーシングケアセンター



9月16日の敬老の日を迎えるにあたり、生愛会ナーシングケアセンターに入所している方々の、多年に渡り社会に尽くしてきた高齢者を敬愛し長寿を祝うためそのお祝いの会を9月11日に開催する予定でしたが、9月上旬からコロナウイルス感染により、フロア内がクラスターが発生し、面会や入退所の制限をかけるを得ない状況となり、入所者の方やご家族の皆様には、ご苦労をおかけ致しました。そのため敬老会が中止となり、お祝いができずにはいりましたが、

お陰様でクラスターが終息し、1ヶ月以上遅れての10月23日敬老のお祝いの会を開催する事ができました。

9月の敬老会のため職員が余興を練習していたため、再度練習し、当日は男性職員が衣装に着替えて「松平健」になりすまし、マツケンサンバを披露しました。後ろではその他の職員がバックダンサーとしてサンバを盛り上げ、2階、3階両方の階でサンバを披露し、利用者の方々も大喜び。「松平健」に扮した職員に抱きつく利用者もいて、大いに盛り上がりました。

コロナのクラスター中は生活が制限され、レクリエーションもできない状態でしたので、敬老のお祝いの利用者の表情は、晴ればれとしていて、本当に嬉しく感じました。普段、あまりレクリエーションに参加する事が少ない入所者の方も、この会に参加し、楽しい時間を一緒に過ごす事ができました。

介護老人保健施設は在宅支援の場である事が大きな役割の一つのため、在宅での生活が



できるよう、入所者の方々日々、目標に向かってリハビリに励んでおります。夏期や冬期は室内の温度管理が難しいため、施設に入所されてくる利用者の方が多いのですが、春期や秋期の頃は、過ごしやすい季節の為、在宅に戻られる利用者の方が増えます。ですが、今年も昨年同様猛暑で、10月でも厳しい残暑が続いていたため、引き続き施設に残って入所されている方も多かったので、猛暑を一緒に乗り越えた事を労いながら、入所されている皆さんの、毎日笑顔ある日々を過ごせるよう支援していきたいと思えます。

本体通所 リハビリテーション

令和6年9月16日(月)通所リハビリテーションの敬老会を行いました。日頃の感謝の意をこめて、職員による「よさこい踊り」を披露し、利用者からもアンコールの声があり、大変盛り上がりました。また、来年の敬老会に向けて、職員一同も更に練習を重ねて行きたいと思えます。



敬老御膳の提供



社会福祉法人 生愛福祉事業団

生愛ガーデン

生愛レジデンス

令和6年9月13日(金) 生

愛ガーデン食堂にて敬老会を開催しました。いつもは昼食かおやつの時間で開催していたのですが、今年は初めて夕食の時間に実施しました。

ご家族の方もお招きして、夕食の行事食も一緒に召し上がっていたいただきました。

長寿の表彰は米寿が2名、一〇五賀が1名。表彰状が授与されました。そのほかの方も一人ひとり名前が読み上げられ、元気に返事される方、こやかに手をあげて下さる方など、様々でした。

余興はけん玉、お手玉、皿回し、テーブルクロス引きなどの一人芸と、ハンドベルの演奏、よさこいと真っ赤な太陽の音楽に合わせたダンスが披露されました。



「米寿・105賀の表彰」
阿部キミさん(105歳)が最高齢



「米寿の表彰」
八木澤さんと加藤さん

また、生愛レジデンスでも16日(月) 米寿の方に表彰状が授与されました。こちらもご家族が参加されて大盛況でした。職員の余興では宮城県披露されました。「すずめ踊り」が披露されました。利用者の方とご家族と一緒に楽しく踊りました。最後に昨年度の行事などをまとめたスライドショーも行なわれ一年を振り返りました。



家族の方もノリノリで踊りに参加していただきました



生愛レジデンス「すずめ踊り」
介護福祉士：高橋、結城



ダンス「真っ赤な太陽」
介護職一同



ハンドベル「切手のない贈り物」
介護福祉士：佐藤、藤井科長、安達



一人芸「テーブルクロス引き」
介護福祉士：羽根田

様々な催し

一年中にぎわう花壇を目指して

生愛会中央医療クリニック

デイ ケア ヘルスケアスクール

2024年10月17日(木) に土いじりをして楽しかった18日(金)と、利用者の皆さ 「成長が楽しみた」 「水やり」と、プランターに苗を植えしなないと、いきいきとる園芸活動を行いました。今 した表情で話していました。年5月に苗植えをしてから、植物により、五感を刺激し、枯れてしまった、花が多くな ストレスの軽減や体力向上、ついていたので、園芸経験のあ モチベーションの維持や他者の皆さんに職員が教えてもら ためのコミュニケーションなど いながら植えて、また を目的として、楽しみなながら 新たにきれいなプラン 年間を通してきれいなプランターとなりました利用 ター作りを行っていききたいと者からは、「久しぶり 思います。」



開設から22周年

生愛福祉事業団の生愛ガーデン（特別養護老人ホーム）生愛レジデンス（グループホーム）は、平成14年10月1日にオープンしました。今年で22年となり、「22周年記念祭」を開催する運びとなりました。昨年も屋上で芋煮会を兼ねて開催したのが好評だったので、今年も芋煮会でお祝いすることとなりました。

午前中から生愛ガーデンの料理クラブのメンバー総出で鍋の仕込み（食材を切る作業）をしていただきました。



今年も山形風芋煮です。豚肉ではなく牛肉で、味付けも噌ではなく醤油でと、福島とは一味違うので山形在住である川村先生に味付けのアドバイスをいただきながら更に西村先生に味見をお願いして、OKサインが出たので皆さんにおいしい芋煮をふるまうことができました。



そのほか、屋上では本間理事長率いる「カナリアンズ」による演奏が披露されました。懐かしい昭和の歌謡曲のメロディーが雲一つない空に響きわたっていました。



また石山

波恵先生の歌声と踊りも素敵でした。利用者の方も波恵先生の踊りに合わせて、一緒にリズムをとりながら、手足を動かして皆とても楽しい時間を、共有する事ができました。



波恵先生の歌声と踊りも素敵でした。利用者の方も波恵先生の踊りに合わせて、一緒にリズムをとりながら、手足を動かして皆とても楽しい時間を、共有する事ができました。

生愛福祉事業団と医療法人生愛会と合同で踊った「よさこい」



波恵先生に「花束贈呈」



職員のダンス「真っ赤な太陽」



「東京ブギウギ」など昭和の歌謡曲のお披露目



川村先生から差し入れていただいた「山形サブレ」を教材にして（笑）山形県の地理など教えていただきました



「山形サブレ」



「大笹産のりんごジュース」

「山形風芋煮とリンゴジュースで乾杯！」折戸町内婦人会の皆様と地域交流会



「芋煮・栗おにぎり」

た利用者のかたは、本間理事長と冗談を言いながら、秋の味覚をおなかいっぱい頂きました。



芋煮会当日は当日は程よい日差しがあり過ごしやすかったです。参加し

生愛レジデンスでは令和6年10月21日（月）に芋煮会を実施しました。22周年記念祭で食べた芋煮がとてもおいしかったのでもう一度食べたいと利用者の皆さんからリクエストがありました。早速、本間理事長にお願いで「山形牛」を購入していただき、屋上で2度目の芋煮会を実施することとなりました。

グループホーム 生愛レジデンス 芋煮会

生愛会グループが防衛大臣・東北方面総監より感謝状を授与される



本間謙一専務理事 中谷元(げん)防衛大臣
防衛省に隣接するグランドヒル市ヶ谷にて



防衛大臣から授与された感謝状



(左上)伊藤健博常務理事 (右上)栗木茂幸一等陸佐
(左下)本間謙一専務理事 (右下)牛嶋築陸将



東北方面総監部より
贈られた記念品

生愛会グループは陸上自衛隊東北方面総監部より、日本の防衛と東北方面隊の任務に支援協力をしてきた事に対して感謝状を拝受いたしました。この感謝状は長年、生愛会グループが本間達也理事長の意向で退職自衛官を積極的に雇用している功績を称えられた感謝状であり、令和6年9月22日(日)、仙台駐屯地で挙行された東北方面隊六十四周年記念行事に本間達也理事長の名代として伊藤健博常務理事と小生が出席して東北方面総監牛嶋築(うしじま)将から感謝状を拝受いたしました。

感謝状贈呈式の中で牛嶋築総監、福島地方協力本部長栗木茂幸一等陸佐とお話をさせていただきました。今後とも生愛会グループは陸上自衛隊に全面的に協力させていただきます旨お話ししてきました。また、10月26日(土)に東京都市ヶ谷の防衛省に隣接するグランドヒル市ヶ谷で行われた令和六年度自衛隊の日記念式典で生愛会グループが予備自衛官雇用の功績を認められ防衛大臣感謝状を授与されました。本間達也理事長の名代で小生が出席し中谷元(なかつた)防衛大臣から感謝状を拝受し、式典後の懇談会の

場で中谷防衛大臣と防衛省地方協力局田中和則局長から長年の防衛省に対する協力に感謝のお言葉をいただきました。今後とも我が国の国防のためにご支援ご協力をよろしくお祈りしますとお話しいただきました。どちらの感謝状も日本国民としても大変栄誉あることであり、生愛会グループとしては今後とも本間達也理事長の指揮の基、日本国、防衛基盤整備支援のために積極的に協力させていただきます所存です。この度は誠にありがとうございました。 (記載責任者 本間謙一)



東北方面総監・牛嶋築陸将から感謝状を拝受する本間謙一専務理事



東北方面総監から授与された感謝状

ご意見・ご要望

医療法人 生愛会 附属介護老人保健施設 生愛会ナーシングケアセンターの入所者のご家族よりご意見があり、左記のように対応致しました。ご家族にご不快な思いをさせてしまい、深くお詫び申し上げます。

【受付日】令和6年6月26日

【内容】本人の右足太もも内側に不自然なアザがある。報告を受けていない。なぜ、どのように受傷したのか?

【問題点】①責任者まで報告が上がっていたがご家族への説明を怠ってしまった。②ご本人の太ももにアザができたのは、車椅子からベッドに移る介助中、職員の手が当たり力が加わったと考えられる。

【対策】①報告体制の見直し。(ご家族への説明は、責任者ではなく支援相談員から行うようにした。)②介助方法の変更。(職員の手がご本人の足に触れないよう介助することとし、その介助方法を職員間で統一した。)アザを見付けた時点ですぐにご家族に連絡しなかったことや、アザの原因究明が不十分であったこともあり、更にご家族に不信感を与えてしまいました。大変申し訳ございませんでした。より一層の注意を払い、安心・安全のケアの提供に努め、再発防止を徹底してまいります。

